

# 介護老人保健施設オアシス21

症 例 概 要 入所者：女性 60代 要介護度4

病名：左慢性硬膜下血腫（術後）、脳梗塞後遺症（両下肢麻痺）、高血圧、両側腎のう胞、腎機能障害

経過：S58年脳梗塞を発症し、その後脳微小血栓症のため両下肢麻痺の後遺症となる。障害用市営住宅に夫と二人暮らしで、夫も障害があり、車椅子を使用しながらご本人の介護を行っていた。ご本人の年齢とともに徐々にADL低下、体重増加があり夫の介護負担が増加。R3年3月自宅で転倒し膝を打撲。夫1人では助けられず救急隊要請し救急搬送されるが入院加療の対象とはならず帰宅する。その後も何度か転倒を繰り返しており、在宅での生活が困難となる。老健でのリハビリを希望され入所となる。

## 内 容

入所後、在宅復帰を目指しリハビリや減量に励んでいました。膝痛も徐々に軽減し、移乗時2人介助から1人介助で行えようになり課題であった車椅子乗車が安定してできるようになりました。夫も介護に意欲的であり、介助方法など写真などで夫に伝え在宅復帰の準備をしていました。

R3年8月退院前カンファレンスを行うも、夫と連絡が取れず状況確認すると、出勤せず会社の方が自宅へ確認に行き倒れているところを発見。救急搬送後、コロナ感染による重要肺炎にて入院となりました。コロナ禍ではあるが、夫の入院先のHCUと連携し、ZOOMでの面会や直接面会を行えるよう全面協力し調整しました。

しかし残念なことに9月中旬、夫は回復せず逝去されました。その後、利用者さんはしばらく気持ちの落ち込みや活気の低下がみられ、退所も無期延期となり、夫と在宅生活をするという希望も叶わなくなっていました。

オアシス21ターミナルケア委員会にて「利用者さんの第2の人生のために」とグループケアの取り組みを計画。利用者さんの思いを傾聴し、節目には気分転換を図れるよう小さなイベントを行いました。

- ①オアシス21屋上で行った初七日はしゃぼん玉をしながら、思いっきり泣きました。
- ②四十九日法要にはご本人は出席できず、代わりに当施設で同室者さんも集まり、夫が好きだった花火を実施。同室者さんから励ましの言葉に泣き笑い少し気持ちを取り戻してきました。
- ③生きがいつくりとして、現在はハンドベル隊で練習に励んでおり、徐々に笑顔が多くなってきました。

④更に、自室から食堂まで車椅子自操するなど活動範囲が少しずつ拡大しており、ステップUPの目標設定にむけてリハビリにも励まれ「次の住むところは、夫とオアシスがあるこの石狩がいい。」と前向きな発言も聞かれるようになりました。

この事例はターミナルケア委員会が中心になり、グリーフケアを当施設の利用者さん「ふくめ弁護士やご家族など全員で支援し、悲しみの淵から生きる希望を取り戻し、

第2の人生プランを前向きに取り組みできるようになりました。理念にあるように、「住み慣れた地域で安全、安心を提供できる」ように、今後もキラキラとした笑顔で過ごせるよう利用者さんと一緒に取り組んでいきます。